

サンパウロ大学への協定校留学 月例報告書 (4月分)

今月は、キリスト教カトリックの伝統である Semana Santa (セマナサンタ)や、県人会による中部地区の運動会に参加したり、サンパウロの田舎を訪れたりして、あっという間に過ぎていきました。さらに大学がストライキに突入したため、普段の学校ルーティーンとは異なり、常に情報を得るために多くのことに注意を払わなければならず、精神的にもかなり疲れています。

既に9か月も経ったにもかかわらず、まだまだブラジルの新たな面を体験することができて、ブラジルの文化についてさらに興味深くなっていっています。

● Semana Santa ●

2026年のセマナサンタは、3月29日から4月5日まででした。この期間は大学も連休になり、家族で時間を過ごすため、多くのブラジル人の友達も実家に帰省し、私は、一緒に住んでいるばあちゃんの家族とお祝いしました。この行事は、キリストの死と復活を意味しており、各家庭の信仰心の度合いによってどこまで行事に参加するかが異なります。私は、特に教会に行くことはせず、家での食べ物を変える程度でした。

Sexta-feira Santa (聖金曜日)のキリストが十字架にかけられた日には肉を食べることを避け、魚料理を食べました。そして、Domingo de Páscoa (聖日曜日・日本ではイースターと呼ばれる日)は、キリストの復活をお祝いするためのごちそうである feijoada (フェイジョアード)を食べました。そして、ブラジル特有の習慣として、Ovo de Páscoa (チョコレートでできた卵)を子供にプレゼントしていました。

ブラジル全体で休暇になるため、行政サービスや店が営業していないことや、旅行に行く家族も多いため、交通渋滞などにも注意を払う必要があります。



金：bacalhoadinha
(タラのオープン焼き)



日：Feijoada
(豆と肉の煮込み)



Ovo de Páscoa
(チョコエッグ)



庭に小さいチョコエッグ
を隠して子供が探す遊び

グアルーリョス地域の散策

サンパウロ大学から電車とバスで2時間程度かかる空港近くの友達の家遊びに行きました。この地域には、日系人が多く住んでいて、ブラジル独自に発展してきた日本食文化を体験することができます。Hot Roll(ホットロー)と呼ばれる、巻きずしを揚げたものがブラジルでは有名です。同じサンパウロ内でも都会とはかなり雰囲気が異なり、落ち着いていて公園や街を散歩するのが楽しかったです。

私の友達は、車で大学まで来ているのですが、交通の状況によって通学時間が30分から2時間と大きく影響が出るそうです。



大学のストライキ

協定校留学に来てから初めて起きたストライキで、4月13日から5月まで未だに続いています。なぜ大学でストライキが起きるのか理由を聞いていくと普通に生活しては気づくことのない、ブラジル社会の一面が見えてきました。従業員と学生によるストライキで大学に対する要望が通る、もしくは納得のいく交渉が行われるまで続き、学生を代表して意見を述べる組織によって、ストライキを続けるかやめるかの決定が下されます。大学で一斉にストライキが始まるのではなく、各学部の学生組織が各自の方法で投票を行い決めるため、初めはまだ授業がある学部もありましたが、現在はすべての学部がストライキに入りました。

【従業員の要望】

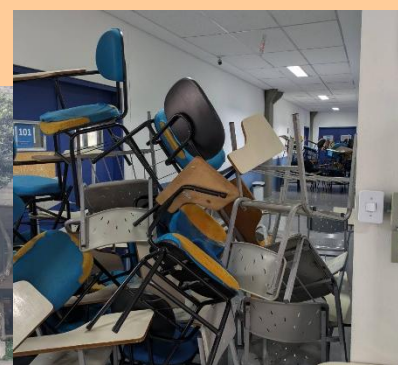
- ・大学職員に支払われたボーナスが給与従業員には支払われていないことに対し、大学に支払いを求める

【学生の要望】

- ・学生食堂の質を改善することを求める（腐った米、虫がついた野菜を提供し、健康に害を及ぼす）
- ・学生寮の施設の修繕/改善を求める（壁の損傷、虫の大量発生など、生活に害を及ぼす）
- ・学生の低所得者向け奨学金の増額を求める（物価の上昇に伴い、既存の金額では、生活が厳しい）
- ・大学内にある学生用の自由スペースの水道光熱費を大学側から支払うように言われたが、大学の施設であるため、学生が負担する必要はないと、支払いには応じないことを求める
- ・学校外キャンパスへのバスの無料化を求める（USP内には無料のバスが走っている）

従業員のストライキ期間は、一部の学食が運営を停止し、学部の建物には幕が張られカギがかけられ、全ての機能が一時停止しました。しかし、1週間後には要望が通り現在は元通りですが、学生のストライキが続いているため、授業はまだ始まっていません。学生自らが環境改善のために、大学側に意見を主張し話し合いのために、授業がなくなることや施設が一時停止することは、これまで経験することがなかったので、学生の政治への関心の高さや意志の強さを実感しています。

大きな大学だからこそ、大規模なデモやストライキを公道で行うことができ、学生の意見を社会に提起し要望の実現を目指すことで、社会の一員としての主張をはっきりと述べている点に感銘を受けました。



中部地方の運動会

ブラジルの日系社会にも運動会が存在していて、秋に入り始める5月が運動会シーズンです。日本の地域区分によって開催されていて、今月は、静岡県が含まれている中部地方の運動会にボランティアとして参加しました。競技内容は、徒競走、玉入れ、障害物競走、二人三脚など、伝統的なものが多く、日本の運動会を懐かしく感じていました。しかし、チームに分かれて得点争いがいないため、各競技の順位によって各個人に商品が渡されているのが異なり、団体での応援やチームとしての一体感がないので、少し寂しい気持ちもありました。一方良い点として、運動会の出店には、やきそば、焼き飯、クレープ、たい焼きなど日本食が販売されていて、日系人にとって、自分たちの文化を感じることができ、ブラジル人にも日本の文化を知ってもらう機会作りになっていると思います。また、運動会というイベントを通して、運営が大変にもかかわらず、子供たちのために何とか続けたいという思いで県人会の方たちが協力している姿を見ると、文化継承の大切さに改めて気づかされました。

